

地域の将来像：住んでいる人々が誇れる郷 明日の小山田の創造

コミュニティだより 第53号

2020.11.15

明日の小山田を考える会の目的は、
住んで良かった・ずっと住み続けた
い・住み良い地域を創ることです。
そのためには、地域の皆さんの積極
的な関わりが必要です。

今よりも、もっと早く走れるようになるぞ～！



昨年度に引き続き開催した「まほろばの郷かけっこ教室」。今年は新型コロナウイルス感染防止により、屋外での開催と、雨天のため予定していた日程のうち2日間が中止となったが、ご指導を頂いているセントラルフィットネスクラブ盛岡の配慮により予定回数の開催ができました。1・2年生は腕の

振り方、反射能力を鍛える学習、3年生以上は、瞬発力、スタートダッシュの仕方を重点的に学び、子供たちからは「来年も参加したい」、「長距離の学習をしたい」などの感想がありました。



災害時における地域住民の飲用水

平成30年度より、災害時における地域住民の飲用水確保を図ることを目的に、地域内にある井戸水等の水質検査を実施しております。今年度は4件の申請があり、中部保健所にて水質検査（簡易検査）を実施しました。今回の検査では飲用水水質基準適合は2箇所でした。水質基準に適合した方は、災害時には飲用水提供のご協力をお願いします。



秋空のもとで、ホールインワン！！



10月31日、晴天の秋空のもと、世代を超えてのグラウンドゴルフ大会を旧小山田小学校グラウンドを会場に開催しました。今年は30名の参加をいただき6チームでプレーに汗を流しました。2日前の雨でグラウンドが心配されましたが、好プレー・珍プレーのオンパレードでした。小学生の子供たちは、プロのゴルファーからアドバイスを受けながらプレーを楽しんでい

ました。上位成績は以下のとおりです。

優勝	菅原 テツ (留ヶ森)
	67打
準優勝	鎌田 副 (前 田)
	68打
第3位	田辺 静江 (駒 形)
	69打(ホールイン：1)



いざという時の「お助け袋」



生活環境福祉部会では、9月下旬から地域内の高齢者等を対象に平成25年度から取り組んでいる「入院セット」を5世帯に配布しました。高齢者が日々不安に感じている、入院時に必要な日用品を一つの袋に納めています。また今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、更に50世帯に2枚ずつ計100枚の「手作りマスク」の配布も行いました。高齢者が自宅でいつまでも健康で地域社会の一員として暮らせるよう、地域全体で見守ってあげたいものですね。



地域の方々による手作りマスク

教えてください地域の宝もの

～ワークショップで再発見！ 地域の魅力 皆で守ろう文化財～

花巻市文化財課では、地域で大切にしたいモノや自然、歴史や文化にゆかりのある場所等、地域のお宝の洗い出しワークショップを開催します。

ついては、出席者を事前に、明日の小山田を考える会に於いて選考させていただきますので、ご案内があった方はご協力をお願いします。

- ・開催日時:令和2年12月5日(土) 午前9時30分から11時00分
- ・開催場所:小山田振興センター「ホール」



【下小山田八幡神社の杉】
平成12年6月15日
花巻市指定記念物

あなたの周りは大丈夫ですか？

【貸出文庫】農家ならではの知恵と汗の集積！！

深刻かつ日常化する鳥獣害に、負けじと頑張る地域農家の対策の数々。嫌がらせのワザやコツ、わな設置の秘策、勘所など害獣ごとに整理した防止対策文庫の貸出しを行います。



借りたい方は事前に、明日の小山田を考える会・事務局まで、ご連絡・ご予約をお願いします。

(電話番号／42-2941)

- ① 農家が教える鳥獣害対策「あの手この手」
- ② 獣害防止対策マニュアル



【小山田地域に生息するカモシカ】

令和2年10月末現在

小山田の人口	世帯数	男(人)	女(人)	計(人)	比較(9月末)
第1行政区	61	96	77	173	1人増
第2行政区	149	210	209	419	3人減
第3行政区	158	225	239	464	—
第4行政区	112	188	179	367	1人減
計	480	719	704	1423	3人減

※花巻市住民登録人口集計表を基に作成しています



センターのプランターに一株のマリーゴールドが今も元気に花を咲かせ訪れる人を和ませています。

(11月4日撮影)

発行：明日の小山田を考える会 電話：0198-42-2941
ホームページ：<http://www.asuno-oyamada.jp>
メールアドレス：asuno-oyamada@tuba.ocn.ne.jp



コロナ禍における喪の作業

明日の小山田を考える会
会長 菊池 保守

高齢化の進行のせいか火葬や葬儀に出席する機会がずいぶん増えたと感じているのは私だけではないだろう。とりわけ、新型コロナウイルスの流行に伴い葬儀の在り方も随分と変わった。新たな日常というものかもしれないが少し違和感を覚えている。というのは、ご存じの通り家族葬が増え、これまで長年にわたって地域で支えあい、悲しみを分かち合ってきた機会が喪失しているからである。大げさに言えば、まさに地域における共助の仕組みの崩壊の危機であるといえる。また、3密を避けるためか直葬（火葬のみ）や1日葬（火葬、葬儀を1日で行う）が増え、最愛の家族を失い、これらの悲しみを乗り越えるための作業（喪の作業）がなくなることによるご遺族の心理的負担が増すのではないかと思うのである。これまでは、不幸にして家族がお亡くなりになったときには、通夜、火葬、葬儀などと順を踏んで営まれてきた。それは、宗教学者である釈徹宗氏によると、人間は大きな悲しみを一度に引き受けることができないから、通夜、お骨上げ、葬儀など段階を踏みながら悲しみを引き受ける喪の作業がこれまで必要だった。それがコロナ禍によりできなくなった。死者を大切に悼む、亡くなったことをゆっくり納得させる心の準備ができないことの厳しさを感じている。と言っている。地域社会の一員として故人が貢献されてきたこれまでの活動に感謝と尊敬の念をもってお別れをする機会もなくなった。これが新しい日常なのかと少し疑義を抱く。



俳優の志村けんさんがコロナでお亡くなりになった際、近親者はご遺体に触れることができなかった。死者はウイルスを排出しない、はずなのにこれが本当に正しいことなのか？きちんと消毒などの対策をとり、きちんとお別れをすることが残された人にとっては必要なことではないかと、考えさせられる。物理学者の寺田虎彦いわく、「正當に怖がることはなかなかむづかしい」と、しっかり情報を収集し、大丈夫と思う日常と変わらない生活で不安をなくしていきたいものである。

～ 編集後記 ～

米の収穫作業も終わり一段落の気持ちですが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり米価が下がり生産者は大打撃を受けております。市では米生産緊急支援事業として30kgあたり107円の補助金を支給しますが、それでも収入は減ですね。（菊池）

